



おかじままさのぶ  
岡島政信 議員

OKAJIMA Masanobu

# Q. 各就航地との関係の構築は

# A. 双方向の交流を推進する



さあ、札幌へ

名古屋空港は、平成17年(2005年)に県営の空港となり、今年で19年目を迎えた。この間、平成23年(2011年)には「ジェイエア撤退」という大きな出来事もあった。その際には、当時の鈴木幸育町長が先頭に立ち、町会議員、県会議員、商工会などが一丸となり、活性化協議会の設置、町民約900人が参加した町民総決起集会の開催、内閣総理大臣と国土交通大臣への意見書の提出、愛知県知事と愛知県議会議長への要望書の提出などに取り組み、これを受けた愛知県も積極的に、また、粘り強く汗をかいていただ

た結果、地元の熱い要望を真摯に受け止めていただいたフジドリームエアラインズ(FDA)による定期便の就航が実現し、今日に至っている。

県営名古屋空港の  
旅客数の推移(FDA)

平成23年度	約32万人
平成30年度	90万人超

7年という短い期間に約3倍の旅客数を達成した。これは、FDAのたゆまぬ営業努力、安全で時間どおりの運航へのこだわり、愛知県による空港使用料や着陸料の減免に加え、わが豊山町も、町民・町商工会の会員の方への利用促進助成制度をFDAの就航時より創設し、全力で利用の促進に努めてきたことも一定以上の効果があったと考える。新型コロナウイルス感染症の影響が続いていた令和4年は、町制施行50周年という、

町にとって記念となる一年であった。この記念すべき年に、厳しい状況にあった旅客数を下支えしようと、助成金額を2倍とする予算案に、議会としても賛成した。

令和4年度の旅客数は、約83万人までに回復した。コロナ前の90万人に迫る数字となり、町の助成制度の拡充も一役買ったと考える。

令和5年3月26日には、地域の念願であった、北海道の札幌丘珠空港への定期便就航が始まった。これにより、これまでの本州、四国、九州の8つの就航地に北海道の札幌丘珠空港が加わり、県営名古屋空港は日本全国9つの就航地と結ばれた。

新しく結ばれた札幌丘珠空港を始めとした国内の様々な



札幌丘珠空港ビル

町にとって大きな財産であり、また、チャンスと考える。

町として、札幌丘珠空港を始めとした各就航地との関係をどのように構築していくのか。

## A 産業建設部長

これからは、就航地から名古屋への誘客を含めた双方の交流を近隣市と共同で、トップセールスにも取り組む。また、令和5年度は、札幌丘珠線が就航し旅客数の増加が期待されている。この状況を活かし、各就航地の物産品を有効に活用し、相互展示販売の機会を設けるなど、各就航地間で人と物が行き来できる双方向の交流を推進する。



新役員就任

議案 PICKUP

一般質問